

RR-49 Q&A

Q：完成品は販売しているのですか？

A：RR-49 は組み立てキットのみの販売となります。

Q：自分で組み立てができないので作ってもらえませんか？

A：RR-49 はあくまでもキットなので、弊社では組み立てをお受けできません。

Q：初心者でも組み立てができるのですか？

A：電池で動作するキットと違い、AC コンセントからの電源と真空管を使用しているため、組み立てと使用には電気の知識が必要です。

Q：小中学生へプレゼントしたいのですが？

A：組み立てをサポートできる方（経験者）が身近にいないと組み立ては難しいです。また、シャーシ内部には AC100V と DC250V（約）の危険な箇所があるため、組み立てと使用には電気の知識が必要です。十分にご注意ください。

Q：感度はどのくらいでしょうか？

A：内蔵のバー・アンテナでは、ビルの中や弱電界地域では入感しない場合があります。感度向上のためには、本キットへの外部アンテナの接続をお勧めします。7MHz 帯ではアマチュア無線用のアンテナが必要です。

Q：アンテナ端子のタイプは？

A：リアパネルにアンテナ端子が付いています。M 型コネクタは付いていませんので、必要に応じて M 型コネクタ（レセクタブル）を用意してアンテナ端子に接続します。

Q：シャーシは穴開き加工されていますか？

A：シャーシは加工済みです。

Q：普通のラジオと何が違うのですか？

A：本キットは、真空管の数が少なくても感度が高い「再生検波」を使用しています。第2次世界大戦後、この方式による完成品ラジオの市販は GHQ によって禁止されていました（再生調整時に微弱電波が出るため）。

Q：なぜ真空管を用いているのですか？

A：真空管は増幅率が高くとても優秀な増幅素子です。半導体でも同様な受信機の製作は可能ですが、2石ではこうした性能を引き出すことは難しいでしょう。また、真空管は入力インピーダンスが高いため、再生検波に向けた増幅素子ともいえます。

Q：どうすれば 7MHz 帯の受信ができますか？

A：本キットに添付のコイルキットを使用して 7MHz 帯のコイルを製作し、中波用のコイルと付け替えることで受信ができます。

Q：7MHz 帯の CW や SSB の受信は可能ですか？

A：再生検波方式なので再生量を発振気味に調整することで BFO となります。周波数の調整には独自のテクニックが必要となりますが、黎明期（れいめいき）のアマチュア無線の雰囲気を楽しむことができます。

Q：7MHz 帯以外の受信は可能ですか？

A：3.5MHz 帯のコイルの製作データが組み立て説明書に記載されています（部品は付いていません）。それ以外の周波数については未対応となります。

Q：再生調整をしても音量が小さいのですが？

A：アンテナからの信号が微弱です。再生検波1段＋低周波電力増幅の構成なので、別途低周波アンプなどを接続しての対応が必要です。

Q：音量が大きすぎるのですが？

A：本キットには AGC（信号の強さで増幅率を調整する機能）回路は付いていません。再

生量を絞るか、アンテナと端子間にアッテネータ（減衰器）などを入れての調整が必要です。

Q：微弱電波の輻射は大丈夫ですか？

A：再生量が大きい場合、受信周波数で発振します。これは微弱な信号ですが、大きなアンテナを接続している場合には妨害につながる恐れがあるので、使用には注意が必要です。

Q：組み立てに必要なものは？

A：プラスドライバが 2 本（#1 と #2）、ニッパ、ラジオペンチ、5.5mm のナット回し、30～50W 程度のはんだごて、ピンセット、テスタなどが必要で、調整にはマイナスドライバが必要です。タイラップも用意しておくとも配線の整理に便利となります。

Q：製作の留意点は？

A：真空管を用いているため内部に DC250V を使用しています。電流値は少ないのですが感電には十分な注意が必要です。また、AC100V の電源を使用しますので誤配線やショートなどにも十分な注意が必要です。

Q：組み立てのサポートはあるのですか？

A：弊社では組み立てのサポートは行っていません。

Q：組み立てた後、動作しない場合は？

A：多くの場合の原因は、誤配線やはんだ付けなどの不具合です。組み立て説明書と実機を確認して、間違いなどを探します。もし修理が可能な場合は有償での対応となります（この場合はお預かり期間が掛かる場合があります）。